

(金融史パネル) 庶民金融の歴史的展開：近現代の東アジアにおける ROSCA の事例から
報告 2：沖縄の事例から 報告者：中村 研二 (釧路公立大学)

沖縄の模合は、琉球王国時代から存在し、戦前の近代的な金融機関が十分でなかった時代に加え、戦後、米国統治下である程度近代的な金融機関が発達した後も隆盛を極め、復帰後の近年に至るまで、盛んであったことが知られている。本報告では、庶民金融の歴史的展開として沖縄の事例を紹介する。

ROSCAs は、日本では頼母子講、無尽、模合 (沖縄) と言われるもので、世界の至る所でみられる金融組織であるが、質屋、高利貸等富裕層の開業する他の在来金融と異なり、原理的には資金を必要とする人が自ら呼び掛けて、自ら講主となって資金を動員する自立的金融であるという特徴をもっている。

まず、開発経済学における ROSCAs の定義を整理したうえで沖縄模合の具体的仕組みを説明する。次に従来の沖縄模合研究をサーベイし、沖縄模合の歴史を近世の沖縄模合、明治期からの模合の発展、第二次大戦後から 1950 年代の模合、1960 年代から 1980 年代の模合の時代区分により整理し、沖縄模合がインフォーマル金融の中で独自の発展を遂げ、無尽会社成立後もフォーマル化せず独自の発展を遂げた背景と本土復帰後の衰退を近代的金融機関と両立しその機能不全を代替・補完する役割に注目して整理する。

次に、沖縄の地域金融市場における模合の具体的運用を明らかにするため、1950 年代石垣島での主要な模合の標準規約、期間、給付額、担保、保証人、講主、加入者の属性、模合市場の規模の整理する。そのうえで地域金融市場での模合と無尽会社の金融サービスの違いについて石垣島唯一の無尽会社である八重山無尽(株)の資金規模、事業方法書、標準約款、組数、契約額、担保等との比較により分析する。

沖縄模合は近代的金融機関と共存していたが、その内容について 1970~1990 年代に大規模に行われた模合アンケート調査の整理により模合の機能を検討する。最後に、沖縄金融市場での模合の位置づけについて、1960~1988 年における沖縄模合の規模を、企業模合、個人模合にわけて、一定の仮定をおいて推計する。

(参考文献)

中村研二「沖縄のインフォーマル金融の機能－沖縄模合のアンケート分析による考察－」
『釧路公立大学地域研究』,第 27 号,2018.12

中村研二「沖縄模合の歴史とインフォーマル金融の機能」 『釧路公立大学地域研究』第 28 号,2019.12

中村研二「沖縄インフォーマル金融の機能と模合の規模推計」『釧路公立大学地域研究』第 30 号,2022.1

中村研二「1950 年代の石垣島のインフォーマル金融－模合の運用形態と営業無尽との競合－」『社会科学研究 (釧路公立大学紀要)』第 35 号,2023.3